

	課題分析	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言葉によって自分の考えを形成したり、新しい考えを生み出したりすることが苦手な児童が多い。 言語を通して正確に理解したり適切に表現したりすることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを形成するための考えのもち方について視点を示したり、新たな考えが生まれるような交流の方法を学ばせたりする。 能力別の学習シートやヒントカードを準備し、国語が苦手な児童も正確に読み取ったり表現したりすることができるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会科見学や調べ学習に意欲をもって取り組む一方、覚えることが多い科目として捉えている児童は苦手意識が高い。学習の進め方に不十分な面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体的に学習に取り組めるように、学習問題の作り方を工夫したり、学習計画を作成したりすることを重視する。学校全体で取り組む教え方学び方を統一したい。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 多くの児童は学年に応じた四則計算の能力が身に付いているが、なかなか積み重ならない児童や、しばらく経つと考え方や解き方を忘れてしまう児童が見られる。 文章題を読み取る力や、数直線や図などを使って思考したり表現したりする力には個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導を生かし、基礎的な計算の定着を図りながら単元の学習に取り組むクラスと、課題解決を中心としたクラスに分けるなど、児童の実態に応じた指導を行う。また、復習や反復練習の時間を設け、学習内容の定着を図る。 思考力や表現力を伸ばすために、自分の考えを図や表、数直線や式などを用いて考えさせ、説明し合う活動を多く設ける。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 植物教材では、植物に関心の薄い児童が見られる。 予想→観察・実験→結果まではまとめられるが、そこからわかったこと、を自力でまとめるにはまだ難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 対象の植物に目が向くよう、教師が意識して話題に取り上げたり、関連教材を準備したりして、意欲を高めるように働きかける。 どのようにまとめたらいいか、最初は言葉や文言を全体で確認するなどして、少しずつ自らの言葉でまとめられるよう指導し、問題解決的思考力を高めていく。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 活動自体を楽しむことができているが活動後の振り返りや表現力が弱い児童が見られる。 動植物に触れる機会などに経験差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 言葉での表現、絵画での表現、身体的な表現など様々な発表方法を取り入れたり、ICT機器の活用を図ったりしていく。 体験活動を増やすと同時に図書教材やタブレットの活用をすすめていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な技能の定着が図れている児童となかなか積み重なっていない児童がいる。 興味をもって活動を行っているが、主体的に考え音楽表現を創意工夫しようとする思いをもって活動している児童は少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもつ場面、技能の習得・活用する場面、自分の学びを振り返る場面を効果的に設定していく。 子供の気付きや発想を引き出し、生かす教師側の発問、対話を行う。また交流する場面を多くもち、音や音楽との対話による考えや表現を深められるようにしていく。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 活動では興味をもってできているが、課題意識の希薄な児童や、自己判断で活動する児童など、様々なタイプが混在している。 理解力や表現の上で周囲と差があり取り組めない児童について個別に指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な表現方法の素材を経験させ個性的で伸びやかな活動ができるようにする。 全体指導では繰り返し指導内容を反復し、視覚的資料などで補った指導を行う。

家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・裁縫の授業では、積極的に活動できる児童と手順がわからなかったり、技術に自信が持てなかったりする児童で学習意欲に差が出ている。 ・実習を含め、学習活動にすぐに取り掛かれない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技術を指導する際は、教師側で書画カメラや動画を使い、ポイントごとで止め、一度全体で確認して間違っている所を修正していく。また、手順表ややり方の動画を児童のタブレットからも見られるようにし、技術の定着を図っていく。 ・授業の学習過程を掲示・板書し見通しを持たせて、スムーズに学習活動に取り組めるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後の運動状況によって、能力に大きく差がある。活動に苦手意識を抱き、消極的になる児童も見られる。 ・説明や場づくりに時間をかけてしまい、児童の運動時間が十分に確保できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度によって個に応じたためあてを設定できる場をつくる。運動が苦手な児童も運動の楽しさや自身の成長を感じられる活動を取り入れていく。 ・授業の中で一番時間をかけたいことを明確にして、児童が十分に運動できるようにする。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動に取り組み、簡単な単語の練習(挨拶や数、色など生活に関するもの)や、英語を用いたゲームには楽しんで取り組む児童が多い。 ・書くことや英語での発表に苦手意識をもつ児童が少なくない。 ・英語表現や語彙の定着に児童各人に差がある。 ・外国語の学習経験が少ないことが原因として考えられるので、児童が安心して活動に取り組めるように授業内容を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がALTと共に、授業に一定の流れを作り、児童に見通しをもたせ、安心して学習に取り組めるようにする。(具体的には、授業の最初は挨拶(Greeting)から始め、chants、game time、writing time、教科書の学習、ふり返りなど。) ・児童が、各単元で扱う英単語、英語表現を繰り返し学習できるゲームを行い、学習内容の定着を図っていく。 ・アルファベットや英単語、英語表現を書く時間を設け、書くことに慣れ親しめるようにする。 ・児童の発表は、学習した英単語や英語表現の中で取り組めるように内容を工夫する。